

## 第50回 日本ジオパーク委員会議事録

日時：2023年12月14日(木) 10:00～16:30

場所：ちよだプラットフォームスクウェア 504～506 会議室

### <委員長>

中田 節也 国立研究開発法人 防災科学技術研究所火山研究推進センター 参事  
東京大学名誉教授

### <副委員長>

宮原 育子 宮城学院女子大学現代ビジネス学部教授  
宮城大学・宮城学院女子大学名誉教授

### <委員>五十音順

ヴォウォシェン・ヤゴダ 一般社団法人 隠岐ジオパーク推進機構 事務局員  
大野 希一 一般社団法人 鳥海山・飛島ジオパーク推進協議会 事務局次長兼主任研究員  
欠 久保 純子 早稲田大学 教育学部 教授  
柴尾 智子 元公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター (ACCU)  
欠 下田 一太 筑波大学 人間総合科学学術院 准教授  
菅原 久誠 群馬県立自然史博物館 地学研究係 主幹  
田中 裕一郎 国立研究開発法人 産業技術総合研究所 地質調査総合センター  
シニアマネージャ・招聘研究員  
新名 阿津子 高知大学 教育研究部人文社会科学系 人文社会科学部門 講師  
橋詰 潤 新潟県立歴史博物館 学芸課 専門研究員  
欠 長谷川 修一 香川大学 四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構 副機構長  
香川大学特任教授  
長谷川 卓 金沢大学 理工研究域地球社会基盤学系 教授  
山口 勝 日本放送協会横浜放送局 チーフアナウンサー  
横浜国立大学 総合学術高等研究院 客員教授  
渡辺 綱男 一般社団法人 自然環境研究センター 上級研究員  
渡辺 真人 国立研究開発法人 産業技術総合研究所 地質情報基盤センター 地質標本館室  
シニアスタッフ

### <日本ユネスコ国内委員会>

匂坂 克久 文部科学省 国際統括官付国際交渉分析官/日本ユネスコ国内委員会副事務総長  
鶴岡 泰二郎 文部科学省 国際統括官付ユネスコ第三係長  
小河 史和 文部科学省 国際統括官付ユネスコ第三係員

### <関係省庁(オブザーバー)>

上村 兼輔 内閣府 地方創生推進室 主査(内閣官房 デジタル田園都市国家構想実現会議事務局)  
判田 乾一 国土交通省水管理・国土保全局砂防部砂防計画課地震・火山砂防室 室長  
萩原 和子 環境省 自然環境局 国立公園課 国立公園利用推進室  
エコツーリズム推進専門官 ジオパーク担当

## <事務局>

古澤 加奈 JGN 事務局長  
田上 順一 JGN 事務局次長  
齊藤 清一 JGN 事務局次長  
山崎 由貴子 JGN 事務局員  
関村 絢 JGN 事務局員  
新田 竜之介 JGN 事務局員

### 【開会・委員長あいさつ・報告事項】

委員長：皆さん、おはようございます。本日もお集りいただき感謝する。

最初に報告事項としては、10月下旬に第13回日本ジオパーク全国大会 in 関東が銚子ジオパーク、ジオパーク秩父で分散開催された。

今回一番重要な報告は、ユネスコ世界ジオパーク・カOUNシル会議が開催されたこと。これは第8回目になるが、9月に第一部がモロッコで開催され、審査のし残しがあったので12月7日、8日にオンラインで開催した。この回で初めてカOUNシルメンバー全員が揃った。ユネスコのEcology and Earth Sciencesのディレクターのアントニオ・アブルという方が挨拶をした。オブザーバーは40名近く参加し、発言権はないが、日本からはJGN事務局長、委員3名、糸魚川の事務局員が参加していた。

今回の議論で新規認定は、9月から継続議論になっていたギリシャの1件、保留にされていたポーランドの1カ所がグリーンになった。新規のロシアの1件は、10月にやっと現地審査が行われたが、結局見送りになった。22の再審査のうち、グリーンが19、イエローカードが3という結果になった。

イエローの主な指摘事項としては、地質遺産と他の遺産の連携が悪いということ、可視性が低い、パートナーシップが不十分、運営体制の不足が挙げられる。これはほとんどのイエロー地域に共通して言えることだった。

見送りになった地域にGGNがこれから全面的にサポートすること、イエローになった地域にもGGNがサポートするが、それから各国のユネスコ国内委員会、ジオパークネットワークのサポートを強く呼びかけることになったところがポイントになる。

結局、9月分も合わせて2023年のユネスコ世界ジオパーク・カOUNシル会議としては、18地域が新しく新規認定推薦され、56地域が再認定された。その結果、48か国213のユネスコ世界ジオパークが生まれる見通しとなった。今後、1月にジオパークカOUNシルビューロに書類が送られて、ビューロが作成する報告書が各国に回覧され、その後3月末に予定されているユネスコ執行委員会で承認されるというプロセスになる。

その他、10月初旬に中国のチャンジージオパークで国際研修コースが開催された。受講者はほとんど中国人だったが、150名が参加した。講師としてGGN創成期からの面々と私が行き講義を行った。

その他としては、来年は世界ジオパークネットワーク創立20周年に当たる。GGNだけではなく各国もこの機会を利用して色んなイベントを企画してほしいという要望があった。イベントを開催してジオパークの認知度を上げ、ジオパークを広く国民に理解してもらうということが希望されている。

さらに、2025年の再来年は、ユネスコ事業化10周年になる。ここでユネスコがイベントを開催するという形になっている。

来年の5月27日から8日間、レスボス島でインテンシブ研修コースが行われる。今回はマネジメントがテーマなので、様々な国のジオパーク運営に苦しんでいるマネージャーが参加してほしいとのこと。この前半の日程がJpGUとかぶってしまう。

以上が私からの報告になるが、質問やコメント等があればお願いしたい。

一同：(質問、コメントなし)

委員長：次、事務局から報告をお願いします。

事務局：先程のお話にもあった全国大会は、銚子会場で10月27日にJGC事前相談会を開催した。参加した地域のうち三好ジオパーク構想に関しては、ポスター発表の中で来春に申請をすることを臨時総会を開いて承認を得た直後だという発表があった。喜界島についても、来年以降の早いうちに申請をしたいという表明があった。まだ決定はしていないが可能性はある。

ユネスコ世界ジオパーク申請の国内推薦の申請に関しては、Mine 秋吉台が4月の申請を考えているということで表明されている。

11月2日に委員による世界遺産をテーマにしたJGC主催研修会を開催した。

11月29日にインドネシアと日本のジオパークネットワークの共催でシェアリングセッションを初めて開催した。後ほど、発起人である委員から内容について紹介していただくと思う。

その他、イベントとしては、12月8日に15年前に日本ジオパーク委員会が最初の7つの日本ジオパークを認定した日ということで、記念のオンラインイベントをオンラインカフェの豪華版という形でJGN主催で行った。懐かしい方が参加してくださったり、昔の話を振り返っていただいたり、100名近くの方に参加いただいた。また、室戸ユネスコ世界ジオパークがこのことを記念して展示を行っているので、オンラインで繋いで展示の紹介をしたりした。

それでは、先程紹介したインドネシアとのシェアリングセッション等について、委員からお願いしたい。

委員：ASGM(小規模金採掘)の金鉱山採掘に伴う水銀利用が世界中で起きており、それに関わる水銀汚染を低減するプロジェクトがある。水銀汚染のあるインドネシアのゴロンタロ州において、解決方法の一つとしてジオパークを立ち上げるサポートを行ってきた。

ただ、水銀汚染の問題は金鉱山の採掘、金の利用に関わっており、本質的な問題は金の利用に世界中の人々が関わっているという問題がある。まずインドネシアでジオパークが認定される段階で、こうした問題に関するチェックがあるのかを調べてきた。インドネシアの金採掘と今日本で話題になっている地質物品の売買の問題にも関わりがあるので、その辺りを俯瞰的につなげていきたいという気持ちからJGN事務局長に相談させていただいて、インドネシアジオパークネットワーク代表の方を紹介していただきZoomミーティングを開催してもらった。このシェアリングセッションでまずは情報を共有しましょうということから始めた。

第1回が11月29日に行われた。日本時間15時から17時までの2時間。登壇者は私と、日本からは糸魚川の専門員、山陰海岸の専門員の3名。あとはインドネシア代表のAPGN・ACメンバーに発表していただいた。この中で私は全体を俯瞰した話で、実はジオパークの中で地質物品の売買の話で進めているけれども、本当は皆さんが使っている携帯電話やパソコンもそうだし、鉱山を起源とする金属を使っているという話をした。

糸魚川の専門員の方は、糸魚川で行われている石灰岩の鉱山会社との連携が始まっている話や、山陰海岸の専門員の方は今の山陰海岸ジオパークの鉱物の販売を指摘された件に関する心得みたいところを発表した。

これで終わりにするつもりはなく、Zoomミーティングの際にインドネシアのジオパークの方が、我々も隠すつもりはなく、これに立ち向かって行きたいと思っているというような発言があったり、とても素晴らしい動きが出来上がりつつあったりという成果が見られた。これを絶やさず今後も続けて行きたいと思っている。

続けて、モンゴルのお話をさせていただく。JGN事務局長から依頼をいただき、8月31日から9月1日の2日間開催された。「ユネスコの文化とジオの遺産を通したモンゴルにおけるサステナブルツーリズム

ム」というワークショップのタイトルで、これはリオ・ティントモンゴリアという鉱山会社と、ユネスコのリージョナルオフィスとの共催イベントで、ジオパークについて話してほしいと依頼を受けた。

色んなステークホルダーが集まってサステイナブルツーリズムに関わる情報共有がなされた。今、モンゴルではジオパークをやっていききたいという強い動きが生まれている。JICA もエコツーリズムを2年間で形にしてほしいという依頼を受けており、このワークショップに関係者が参加していた。JICA との方との繋ぎを作るなどとても有意義な場だった。

この中ではジオパークの一般的なことや、今問題になっている地質物品の話をした。発表の質疑応答だけではなく、終わってからも議論が続いたり、かなり活発にコミュニケーションを取ることができた。

委員長：ありがとうございました。

ただ今の報告について質問、コメント等があればお願いします。

一同：(質問、コメント等なし)

委員長：なければ次の議題に移りたいと思う。

#### 【議題① 日本ジオパーク再認定審査：恐竜渓谷ふくい勝山】

委員長：議題①にはいる。日本ジオパーク再審査の恐竜渓谷ふくい勝山。それでは委員報告をお願いします。

委員：それでは恐竜渓谷ふくい勝山についての現地調査の報告をする。プログレスレポートの書きぶりが控えめであった。そのため現地に行かないと分からないことが多かった。控えめなレポートとは裏腹に、地域の活動は今もって大変盛んであり、熱量の高いことを確認した。一方で事務局の熱量はそれほど高くなく、受け身の姿勢があるのかなというふう感じた。

前回の審査の際、11項目の指摘があった。一覧表に進展を○、△、×で示した。

まず、保全について。サイトのカルテ作成は進んでいるということであったが、実際には61のうち5つしか完成していなかった。地権者の洗い出し等は進んでいるが実態としては、完成率は高くない。

文化サイトについては十分な計画がつけられており、教育委員会の文化財活用部門が首長部局に移り、現在同じ課の中で事務局を担っている一つの成果であると感じる。

恐竜化石の発掘現場の露頭が草木で埋もれていることについて、下の方の地層だけ見えていればいいのではないかというのが現状の県の考え方のようである。ジオパーク側もそれを容認しているように見られ、進展はなかった。恐竜発掘現場は国指定の天然記念物であり、来年度、県の予算で委員会を立ち上げて保存計画を策定するというので、△とした。

2つ目、ガイドの育成については、コロナ渦もあり、動きが少ない中ガイドが自主的に他のジオパーク地域訪問やオンライン学習を実施したことで△。ガイド団体はメンバー18名で小規模ではあるが、今後はガイド育成に自分たちも参加したいという意向を見せており、△である。

3つ目、情報の質的向上については、七里壁という河岸段丘を示す長い壁の看板、特に英語について指摘があったが、昨年改善されていることを確認した。

現行のパンフレットが、恐竜と地質年代を中心とした紙面構成であり、そのことに対して検討を促した前回の指摘に対しては、特に大きな検討はなされておらず、指摘の一部である環境に配慮した行動への注意喚起事項がパンフレットの一部分に四角い囲みで入っているに止まっている。本件については、特に英文パンフレットは、コロナにより在庫が多く残っていることもあり内容の更新が止まっていると考えられる。現在まで継ぎはぎでパンフレットを修正してきており、大きな内容改訂に至るまでの体制が整っていないのではないか。

4つ目、地域性を伝える工夫については、地域の地質地形と文化的な活用及び気候などを盛り込んだ良質の展示が「白山平泉寺歴史探遊館まほろば」と「はたや記念館ゆめおーれ勝山」の臨時展示が行われていた。文化財活用部門と今までのジオパーク担当が一つの場で事務局を担当することになった直接の成果

である。興味深い展示であり、常設化や、場合によってはパンフレットに落とし込めないかと期待し〇とする。

5つ目、PDCA サイクルについて、手付かずであると感じた。特に市の総合計画の中、10年後の勝山の賑わいと安心安全を作り出すのは恐竜とジオパークだとはっきりと描かれているが、積極的にジオパークへ引きつけたいという積極的な議論が行われている様子が見られないことから×とする。

6つ目、文化遺産及び無形文化遺産の目録は先ほど述べた通りである。文化庁にも認定された地域の文化遺産の保存、活用計画は十分である。これまでのエコミュージアムの成果が十分に活かされており〇とした。

7つ目、自然災害の対応について。恐竜化石が発掘されることを含む地質地形の価値やそれらがもたらす恩恵とそのうらはらの自然災害について、ツアーの中で十分に語られているため、〇とした。

8つ目、地域ブランディング戦略は、過去に様々な経緯があるようだが、今は何もやっていないというのが実際のところで、評価されるべき点はあるが、ジオパークの成果として位置づけられないような形や明瞭ではない点により×とした。

9つ目、教育実践は以前から評価されている点であった。今回の調査においても評価すべき実践報告があった。白山平泉寺において地元の小学生が年に数回大人を対象にガイドする事業があり、小学生たちが自主的に動画制作を検討していることを現場で発表した。公共広告機構 AC ジャパンのテレビ、ラジオ、新聞広告で扱われているほか、数々の全国的な受賞歴もあり発信が盛んなことから、〇と評価する。

来年度にかけて福井県立大学に恐竜学部の新設が予定されており、そのキャンパスが勝山に設置されることから大学生の来住が期待されている。同時に地元住人も、大変強い関心をもっている。また、現在3つある中学校が1つに統合されて、勝山高校の敷地内に新しい校舎が建てられる。このような若い世代への教育に関する大きな動きの中で次世代の担い手を育てていくことに繋がることを期待する。

10つ目、スタッフの拡充について。2020年の勝山市の機構改革が大きく、首長部局で課長職が15から12へ。教育委員会も大きく再編された。ジオパーク課も商工文化課として教育委員会の文化財担当部署と合流し統合された。評価すべき点もあるが、前回の指摘で過剰な業務負担を避けるべきだとあったが、改善は見られない。

文化財部門との合流は良いが、以前2つだった係を統括していた事務局長、つまり商工文化課課長が現在5つの係を統括しており、タスクが10%では事務局長の役割を十全に果たせるとは考えにくい。課長によると、この一年で文化財活用と従前のジオパーク活動がうまく連携できていることにより、今後はふるさと納税、観光、産業振興、そのすべてをジオパークの仕事と連携させていきたいと複数回にわたって述べており、これが実現すると大変良い相乗効果が考えられる。しかしながら、専任2名のみの現状の事務局を鑑みると難しい点が多いのではないかと考える。

最後の点、知識と経験の共有について、化石販売の停止やたいへん盛んな地域活動も含めて、発信できることは多いと思われる。数年前には全国研修引き受け多くの参加者を得たが、現在同じようなことができるポテンシャルが不明瞭であることから△とする。

かつての化石発掘体験でももとは砂の中に海外の化石を埋め込み、子供たちに発掘させる「偽体験」が行われていたものの、現在では地質資料の保全の観点から、外部への持ち出しのオファーを断っており、県、市、施設でジオパークの理念の共有がなされている。観光への貢献、科学への貢献ということに寄与する好事例であるので共有させていただく。

以上である。

委員長：ふくい勝山は以前イエローカード出ている。その時の課題が、基本的にクリアされていないと感じている。特に報告書にあったが、恐竜博物館が前面に出る中で、ジオパークがその流れに取り込まれてい

ないというのは課題である。また事務局体制についても大変貧弱になっている。現状では多くの課題をクリアすることはできないだろうなという印象を受けた。質問討論願います。

委員：恐竜博物館のリニューアルがあったが、ジオパークはどれくらい関わることが出来ているか。

委員：ほとんど要望を出していないと見受けられた。存在証明のようにジオパークのポスターが数か所に置かれており、入り口のデジタルサイネージの中のコンテンツの一部として入っているが、リニューアルの結果、ジオパークとの連携が展示の中でわかるということはなかった。恐竜博物館内をジオパークガイドが案内するかという質問には、博物館担当者としてはジオパークから提案があれば受け入れられるとのことだったが、事務局からは人材不足で難しいだろうとのやり取りがあり残念に感じた。詳細はわからないが恐竜博物館の収入の一部が市に還元される仕組みもあるようだが、ジオパークと博物館の連携が必要であることにはわかりはない。

委員：恐竜博物館は自力の収入によって施設のリニューアルができる数少ない博物館であるが、リニューアルというチャンスが比較的頻繁にあるのにそこに関与できていないのは問題であると感じた。

委員長：その他あるか。

委員：スタッフの問題。現状2人に過度に業務が集中している状況であって、結果対応しきれない状況である。今回の提案がグリーンカードだが、テコ入れという意味も含めイエローカード対応した方が良いと考える。なぜグリーンで提案されたのか。

委員：十分とは言えないがIIの指摘事項について取り組んでいたことと、新しい担い手たちを含め地域が熱意を持っていること。プログレスレポートを読む段階では、イエローを懸念したが。一部イエロー相当な部分はあったが、イエローを出す効果がわからない。グリーンを提案した最たるところは、地域の熱意。現地で悪い印象をもった点がなかったから。

委員長：その他はあるか。

副委員長：首長、協議会の会長は現在ジオパークに関してどのような認識を持っているか。

委員：過去の経緯を遡ると、首長は、現在のジオパークになる前の時点、事務局、そして政策監としてジオパークに長く関わり続けた方である。会長としては、「自分の役割は必要な人材と財源をジオパークに振り回すことだ。今まで大変苦しい時代があったけれども、今は充実期にある。」との認識である。

副委員長：ふくい勝山は、2013年の条件付き再認定だったが、私が2015年に再認定調査時に福井の博物館との関わりは懸案のひとつだった。ジオパークに理解のある館長が就任すると、少し近寄って、(変わると)また遠くになる。なかなか関係が安定していなくて、これはジオパークサイドからしっかり関係づくりの働きかけをすることがとても大事だと思うが、やはり専門員レベルと首長・会長レベルで、できることが違うとはいえ、一番大事なところの認識が、予算などといったところで、役割が小さくなっているかと思う。

委員：事務局の皆さんとのコミュニケーションがよく取れるようになっている。セミナーの共同開催や子どもたちの教育活動なども実施している。そういったことで、若手の研究者も含めて、日常的にやりとりがあるようである。関係としては良好ととらえられている。これまで、例えば館長とアポをとるのも大変だったのが、今は電話一本でできるようになったと言っている。また、協議会の副会長は、以前副館長だった方が定年を迎えて、指導研究員のような形で違う立場になっていらっしゃるようだ。

一方で、県との協力に関するところかというと、会長は恐竜博物館や恐竜戦略室だけではなく県のほかの部局ともとても緊密に連携しており、そこはそれほど心配していないというニュアンスだった。

委員長：ありがとうございます。以前は館長が研究者だったが、研究者畑ではない人が新しい館長になった。結果、業務的には非常にアクセスしやすくなったが、その館長はジオパークのことをあまり理解していらっしゃらないという状況だと思う。一方で研究者をいっぱい抱えて、その研究者がジオパークと絡んでいないように見えるがどうなのか。

委員：そこは複数絡んでいる。協議会の学術部会にも協議会副会長と若い古生物の研究者一名がおり、少なくとも3人は、日常にかかわっているようだ。

委員長：そのような絡みはちゃんとあることは救いではある。イエロー出しても、効き目なければ出してもしょうがないと思うが、本当に効果あるか。出さないとかえってまずいと感じるが、なにかご意見伺えたら。

事務局：審査結果通知書案について、他の4地域もそうだが、今回事務局からお送りしているひな形どおりに皆さんに緊急課題を一つか二つ必ず入れていただき、次にそれぞれ1年以内、2年以内、そして中長期的に解決すべき事項ということで、バランスよく配置していただいている。しかし、緊急課題がない場合は、最初の緊急課題のところはなくしていただいてもよい。ふくい勝山の場合、博物館との関係をもっと連携強化すべきということであれば、パートナーシップ協定が今ない状態であるから、おおむね1年以内の緊急課題として、これをあげるかどうか確認したい。

委員長：今ご指摘のとおり、事務局スタッフの増強とその博物館との連携をもっと強化するためにどうしたらいいかという観点から、パートナーシップ協定の締結が一つの指摘事項だと思う。その2つが緊急ではないか。

委員：通知書案で、実施計画についてあえて書いたのは、事務局が今回の再認定の調査、再認定の結果を受けて、今年中に形だけ整えて改訂版を出そうとしていたことに対して、私たち調査員はとても危機感を持ったから。ジオパークまでが行政で、エコミュージアムからが市民のようであった。協議会としてというよりも、そこまでが行政という気持ちと雰囲気がとても強いように感じた。今年度中に事務局中心の実施計画改訂を目指す中、これだけ盛んな地域の人の意見を聞くという姿勢がほとんど見えなかった。それに関しては事前の打ち合わせの時にも指摘したが、響いていなかった。実施計画の改訂は今年度中に終わらせず、来年一年かけてでも地域の皆さんと話をしながらやってほしいという意味で緊急だと感じている。

博物館との連携については、博物館の中も縦割りになっておりジオパークのことが全体に理解されていない面もあることを事務局としては認識しているが、関係自体は良好になっている。博物館に対してはたいへん気を使っていると思う。

委員長：事務局もそこは弱点だと思っているわけですよ。

委員：今回グリーンの場合は、次回以降も同じ指摘をし続けるような気がしており、出せる時に出したほうという気がしている。もう一つ、エコミュージアムの話があったが、もともとエコミュージアムで地域活動を活性化させて、その活動をジオパークで継続していこうという流れの中で市の総合計画をエコミュージアムからジオパークへと変化させた。まずそのエコミュージアムの時のレガシィでジオパーク活動を展開していて、それがそういう活動に対してジオパークがちゃんとパートナーシップとか、その認定制度とかブランディングなどで、彼らの活動を更にレベルアップさせているかというところが疑問が残るところである。彼らはエコミュージアムの活動のある種消費しているような感じを受ける。そこでもう少しジオパークとしての新しさとかやり方というのを導入してほしい。やはり先ほど委員長もおっしゃったが事務局スタッフで実質動いているのは2人。たくさん研究者が参加して、学芸員なども参加しても、彼らは彼らの業務範囲内でやっていて、地域との連携をしているのは2人で、この全域を博物館研究者との関係も含めてカバーしているとなると、やはりそれはかなり大変だと思う。そういったところで私の意見としてはイエロー出して博物館とか地域との連携を評価しつつ、スタッフ体制の見直しを求めたい。特にスタッフのあり方とか増強とか、マネジメントの仕組み自体をもう少し見直す必要があるが、それは2年でできるのではないかというふうに思うので、私はイエローを支持したい。

委員長：その他イエローをサポートする意見があればお願いします。

委員：福井はご存知のとおり、来年の3月に北陸新幹線の延伸で福井に停まるようになり、相当強烈なキャンペーンを行っている。それは県主導であり、これとも連動して県立大学に恐竜学部ができる予定である。

しかし、今まで恐竜学部はなくて恐竜学研究所というのがあって、そこにスタッフもいる。県立大学との連携とかコラボレーションなどの話は聞かなかった。県行政とどのくらいやり取りがあったのか。結局、県のイメージ戦略もこの恐竜王国福井なので、非常にジオパークの目指すところと近いはずだが、共同したブランディング、あるいはその誘客活動など、あまりその県行政との協働した取り組みというものが感じられなかった。今の話の中で、やはり恐竜博物館も含めて、県行政や県立大学とのパートナーシップみたいなものをきちんと模索して、ある程度一体化したような地域全体で盛り上げるような形になったらいいのではないかなと思う。もう少しそういったところの示唆を与えればよいのではないかな。

委員長：ありがとうございます。恐竜学研究所の所長は私の知り合いだが、彼はジオパークをすごく気にしており、学術会議からジオパークに関する「提言」を出せないかという相談をされたことがある。そういう人にもジオパークの情報がきちんと届くように、パートナーシップ協定が必要だと思う。

委員：実は今、恐竜学部っていうのもまだ確定したわけではなく、文科省に認可申請をする段階で、いろんなことを計画・構想中である。ジオパークというものを教育の中に取り組みてもらいたいというような議論も可能だろう。例えば新しく入ってくる学生に対して、ジオパークを活かしたような教育、例えば実習や講義っていうのも組み込めるかもしれない。だから今こそやるべきではないかな。

委員長：ありがとうございます。非常に積極的な意見。

他に意見はあるか。

事務局：すごく重要なお指摘だと思うが、先ほど委員がご報告されていたように、この今の事務局も精一杯出来る範囲のことを全てやっていると、そこにイエローカードを出して耐えられるのかとか、それがエンカレッジになるのかどうかというところがポイントかなと思う。ネットワークのメンバーとしても心配なところである。イエローカードでその指摘があって、機能しそうなのか、ギリギリ黄緑だけれども、グリーンカードで強い指摘の方が機能するのかなというところの議論をしていただければと思う。

委員長：意見いただきたいと思うが、イエローカードは別に悪いことではなく、よくカウンスルでも議論しているが、イエローカードは別にパニッシュメントではなく、これは非常に強いリコメンデーションを与えるので逆に活用できる。そういう議論から、日本でもそういう認識を今までも言い続けているが、なかなか伝わっていないところがある。

委員：趣旨をできるだけうまく伝えるっていうのは難しい。きちんと伝えてイエローカードっていうのが出来るのならイエローカード。伝わるかどうか。

委員長：難しい。

委員：私も色はイエロー派。なぜかという、主にスタッフの方が気になっている。以前より減ったのではないかな。その2人だけで今後のジオパークの取り組みと今回の指摘事項を解決しようとするのは無理のほう。9つの指摘事項があがっていると思うが、4年間で2人だけが中心になりクリアできることは厳しく思う。指摘事項の内容に、緊急着手が必要な課題に事務局体制や人員増加が入らない場合は、役所の他の課に業務を任せられるような対策を進めるような指摘の追加が必要と思う。結局、人手が全く増えず、現在の2名に重い負担をかけるようになるのは良くないと思う。指摘事項を修正した上で、この2年間でクリアできるようなものにして、本当に強い事務局体制につながるような指摘事項を出した上で、イエローを出せばいいのではないかな。

委員長：私もそう思う。だから緊急の1番目は体制をもって来るかパートナーシップをもって来るか別にして、その2つが緊急ではないかなと思う。

他に意見はあるか。イエローという伝え方をかなり考えなければいけない。今日発表するわけだが、すぐにフォローするアクションを起こさないといけない。それについてもこの後相談できればと思う。

ここで結論を出したいと思う。提案としてはイエローとして早急に解決すべき事を、恐竜博物館との関係パートナーシップとする。福井県立大学との連携も含めて、それを一点目とする。2つ目は今の体制を

強化しないととても運営が無理だということで、この2点を緊急課題とすることにして、イエローで提案したいと思うが反対の方は挙手をお願いします。

(挙手なし)

委員長：では棄権の方はいるか。

(1名の挙手)

委員長：1人。その他は賛成ということになる。

棄権1名、その他賛成。どうもありがとうございました。

## 【議題② 日本ジオパーク再認定審査：佐渡】

委員長：次、佐渡の報告をお願いします。

委員：佐渡の報告をする。結論として私はグリーンを提案するが、議論になるかと思う。

指摘事項への過去の対応事項が7つあるが、非常に良くできたものが2つある。

まず、良くできた点はリコメンデーション6。3事業の実質的な効果の創出。佐渡は日本ジオパークだけではなく、世界農業遺産、世界文化遺産登録に向けた資源、この3つの事業をこれまでバラバラにやってきたという経緯があるが、それを一つにまとめていきたいと思いますというリコメンデーションだった。これに対しては結構大きな進歩があって、民間会社とジオ協事務局と、あとは世界農業遺産を所管する佐渡市農業政策課の方で連携が進み、実際にその事業を楽しめるツアーの創出をしたり、その地域の人が入ったりとか関わりができてきて、それぞれの3つの事業が実質的に連携したプログラムを構築し、それを提供し始めている状況が生まれている。

あと7番目の宝石販売で、これは赤玉石という佐渡特有の岩石鉱物の販売行為を軽減すべき、というものだったが、これについては、実際に佐渡ジオパークの事務局がジオパークエリア内の147店舗に対して地質鉱物の販売実態の調査等物品を減らすための啓発チラシを配布して、2022年2月の時点で19あった販売店舗が、その半年後には15に減った。赤玉石に関しては、現状の物を売り切ったらもうあとは売らないということが全ての店舗で確認されていて、最近の岩石鉱物の販売に関する関わりの一つの良い事例を出している。

さらに良かったのは、その啓発チラシを配ったことによって、佐渡の岩石好きの方々が構成される佐渡銘石協会という所からクレームが入ったが、その方たちに対して、ジオ協事務局のスタッフがジオパークの理念を伝えて理解を促したところ、赤玉石の価値を次の世代に伝えたいという教育事業を行うというふうに話が変わり、最初は文句言っていたが今度は一緒にイベントしようという流れが生まれた、という非常に良い事例を生んでいる。

一方、それに対してリコメンデーションでどうしても私が気になったのは3番目。リコメンデーション3は、専門的すぎる看板や冊子媒体類の改善。様々なマテリアルを佐渡ジオパークは精力的に作っているが、そこに関しては残念ながら、地形地質学的情報の発信は8割から9割。相変わらず“地質公園化”が改善されていない。

それから現地に設置されている解説看板に関しても、地形地質学現象という目に見えない、あるいは概念的なプロセスをこれまでイラストで示していたものが写真に置き変わってしまってイラストでの紹介が全くなくなってしまった。なので、大地の動きや、そのプロセスみたいなものを現地で見ることができない事態になってしまっている。これは私の中では改善ではなく改悪だと思っている。

こういったように、“地質公園化”がダメだということを指摘し続けているが、それが改善されていないところが非常に大きい。それは実はリコメンデーション1のサイトの整理と再設定の部分にも関係している。佐渡ジオパークに関しては、前回の指摘事項の中でジオパークのサイトの再整備をしてほしいとあり、その中で文化サイト等のサイト設定をしてくれということのリコメンデーションしているが、実際に行った対

応はジオサイトが88カ所から48カ所増えて地形地質サイト136になっている。その結果、文化サイトは7、自然サイト5。なので、地形地質の評価は非常に偏った取り組みが推進されているので、ここは非常に良くない点。

教育事業も非常に活発にやられているが、改善を求める点としては、まずは計画を作って何かやることは非常に得意なので、そこにはぜひ10周年記念のイベントを大々的にやったものを生かした形の計画作りをしてほしい。それから、地形地質に偏っている情報の発信の在り方をきちんと改善して、それをパンフレット、看板、ウェブサイト等にも反映させてほしい。

また地域にジオパークをつかって良い活動をしようという民間の方や、ショップ、レストランの方もいるので、そういった人達ときちんとしたパートナーシップ協定を結んで活動をさらに地域に広げてほしい。

非常に良い事をやっているっていうことを評価したいので私はグリーンにしたが、非常に大きな課題もある。グリーンにした理由は、イエローカードを出して2年でその地形地質関係の情報発信を改善するのは無理なのではないか、ということ。4年かけて確実に改善することが、私はこの地域では必要だと思ったので、改善を求める強いリコメンデーションを付けたグリーンを提案したいと思う。

委員長：ありがとうございます。

これもなかなか難しい問題だが、佐渡は2つ前の審査でイエローを受けている。

ただ今の報告についてコメント等はあるか。

委員：3事業連携が動き出したという報告があり、これは大事な動きだと思った。

佐渡は島という事もあり、持続可能な島作りということで佐渡のいろんな取り組みをその中に続けようとしているということがあって、この3事業連携でジオパークを続けていくというのは伸ばしていきたい動きだなと思った。

農業遺産も日本の農業遺産第1号で、トキが生息する佐渡里山ということで農業遺産になっているが、先程の話にあった、解説版や冊子の情報提供もこういった3事業連携を生かして、地形地質だけじゃない幅広い情報発信につなげていく1つの材料にし得るのではないかとというのが1つ。

もう1つは改善を求める点で、海域を含むエリアの設定で、佐渡は陸域と海域が国定公園になっている。特に佐渡だけじゃなくて、日本全体の海域の公園について拡大強化していこうっていう大きな動きがある。海域公園地区という海域の国定公園の特別地域があるが、それを倍増していこうという動きがある。佐渡はその適所をたくさん抱えているので、そういった国定公園のその海域公園地区の取り組みと、このジオパークの海域サイト設定というのが上手くお互いに励まし合い活かし合って、両方が前に進めるような関係ができたと思う。それが海域の展開の1つのサンプルになってくるのではないかと考えたので、この辺を期待したいと思った。

委員：ありがとうございます。

確かに海域に関しては今回の報告書では陸域だけになっているが、実際にサイトに行くとき海の話が出てきた。現地でも現地確認中にも伝えているが、海域のエリア設定に関してはリコメンドする可能性が高いということをお伝えしている。ぜひそこは前向きに検討してほしいし、指摘してもそこは現地にとっては驚きじゃないと思っている。むしろ言ったほうが良いと思っている。

委員長：その他はあるか。

委員：私も3つの遺産との連携という事にすごく興味がある。

私の初任地が新潟で、最後の日本産のトキのキンちゃんも亡くなる時、45分のドキュメンタリーを作成したりとずっと関係していた。あの時は日本産のトキなんてもう無理だなんてなっていたが、現在は中国からのトキが一生涯懸命増殖して、今佐渡の外にも出ようとしている。そういった活動もこのジオパークはちゃんと取り込んでいて、生態系もそうだし農業も持続可能で土壌も上手くいっていると思っていた

が、それがジオパークというものを主語として考えた時に、上手くまわっていないように見えるという部分は、何をするとそれがちゃんと連携しているか、ジオパークを主語として見た時にもいいんだと言えるのかというのを伺いたい。

委員：特に上手くまわっていないという感じではなく、世界農業遺産の点で言うと、佐渡の農業政策課と地元の農家、ジオパークの事務局の連携は非常に良くできている。実際に、その農家の人やトキの自然センターの職員にジオパークのスタッフがジオパークの職員研修で情報提供をしたりもしている。

地域の人や農家の人の声や、佐渡金銀山の所管の人たちと連携して1つのツアーをこしらえて、それを形にして10周年事業で提供している。ここまで連携するのに10年かかったという印象である。

ただ、それ等の活動がジオパークとしてオーソライズできていない唯一かつ重要な点が、農業遺産等の多くが、ジオパークの文化サイト等に指定されていないということ。ジオパークがオーソライズしていないところで活動を展開しているふうにもどうしても見えてしまうので、そこはきちんとサイト化をして、ジオパークもちゃんとその価値を認識しているということを見える形にした上で、サービスを提供して行ってほしいというのがリコメンデーションの中に入れてある。

委員長：それは何番目か。

委員：リコメンデーションの5番目。

委員長：これはもう少しきちんと書いた方がいい。世界遺産や農業遺産について。

その他に皆さんあるか。

委員：佐渡は一見上手くやっているように思えるが、例えば、拠点施設の1つを見ると佐渡島総合開発センターの中のスペースにジオパークの拠点施設が設置されている。地域の中に博物館や資料館がかなり数多くあるが、そこでのジオパークのビジビリティはあまりない。ロゴマークもない。もちろん金銀山もそうだし、トキ自然センターもそうだが、人との連携は進んでも施設間連携が見えてこない。やはり彼らがやっているのは地質公園じゃないかと思う。無形文化もたくさんあるのに、そういうところともあまり連携が取れていない。先程委員がおっしゃったが、常に解説が地質学的なものに偏っている。

防災についても学校の教育がようやく始まったが、地域防災にはあまり取り組んでいない。ジオパークのビジビリティも低い。地質公園からの脱却をより強く後押しするためにも、個人的にはイエローカードがいいのではないかと思う。

もう1つは持続可能な開発が弱い。ジオパークを整備し、地域からの参加者がでてきているが、それをどうやって持続可能な開発に繋げていくのかというのは、あまりスタッフの中でも共有されていないような印象を受けている。ジオパークは地質公園ではないという点と、持続可能な開発がコミュニティのためのものだということ、あとビジビリティの低さから私はイエローではないかと思うがいかがか。

委員長：ありがとうございます。

私は個人的に今の委員の意見と非常に近い考えでいるが、グリーンカードで強いリコメンデーションを出して、今の地質公園化をちゃんとクリアできるかっていう話になる。結局、この前のグリーンで指摘したことがほとんどあまり改善されていなくて、逆に地質サイトが増えて、文化サイトが全然注目されなくなっているのはやはり危険な状態だと私は思う。

その他にコメントあるか。

事務局：通知書案をいただいている点からだが、優れている点の1番に多くの計画やガイドラインを設定し実践しているというところを評価しているが、計画を作りすぎて実働が伴わないというところは実は佐渡の問題なのではないかと思う。準備にすごく時間をかけて、しかもその準備段階でかなり地質の方に重点を置いてというようなのが実態なのであれば、高評価点よりも課題としても見えてくるのかなと思ったが確認させてほしい。

委員：そう言われてみればそうかもしれない。

委員長：文章でどこかに書いていたのでは。計画ばかりで実現に至っていないと。

委員：この大きな課題は、ふくい勝山とも関わるが、何か計画を立ててその計画を実行するために何かやりました、というところで終わる。それを検証して、さらに良いものにブラッシュアップさせていきましようということが出来ていない。なので、プログレスレポートもそういう書き方になった。「やりました」という事が書いてあって、じゃあそれは何を狙ってやったのかとか、それによってどんな変化が地域にあったのかってところがモニタリングされていない。なので、PDCA サイクルがまわっていないというようなニュアンスの書き方にどうしてもなった。ガチガチの行政的なやり方で計画を作ってやったってということがOKであって、それがもたらす狙いや効果や評価ということはほとんど入っていない。そういった意識を変えるには4年かかるのではないかなというのが私の案。

委員長：おそらく4年かかると思うが、指摘事項の最初にそれを持ってこないとまずい。情報発信と地質以外の部分も2年間で計画を立てて、実行に移すような可能なものに仕上げるという形にする。そういうことで文章化して、緊急の方にまわしたほうが良いような気がする。

その他はあるか。

委員：私は今のとは別の質問だが、指摘事項5の海域を含むエリアの再設定と書かれているが、前の委員会でそういう議論があったと思う。エリアが変更するような指摘事項はしないという認識だったが今回出す根拠はあるのか。

委員：最初に事務局長が、佐渡に入ってくる特別な魚は佐渡の海の近くの瀬を上がってここまでやって来るということを海底地形を使って説明されたが、それはエリア外の話になる。そこをもっと海洋資源も含めて佐渡の資源だと認識しているのであれば、そこは海域も含めてエリア設定してあげた方がいいのではないかという事を現地で言ったから。

委員：委員会でエリアを変更してくださいという指摘をしていいのか。

事務局：エリアを変更することについて、「検討」提案だったら大丈夫。そういうふうにかウンシルでもよく議論されている。今日の最後の確認事項のところでも海域を含む場合についてはご確認いただこうと思っている。

1つ確認だが、佐渡に関しては島や岩も含めて飛び地はないという認識でいいのか。

委員：ないという認識。

事務局：承知した。

委員長：命令力はないということでリコメンドすることは可能。

次、お願いする。

副委員長：前回、再認定の審査をして、それから今年の7月にジオパーク認定10周年のイベントにも行かせていただいた。

今回、審査をしてもらった結果として、地形地質のことが際立ってジオパークとして出ている部分については、確信はないが、今、その3事業の文化遺産と農業遺産があるので、少し自分達の差別化みたいなことをジオパークの方は少し地形地質を強めにしており、縦分けて今この3つの事業を自分達で取り扱おうとしているような気がしている。本来は、1つの佐渡の世界を作っていくためのジオパークとしたら全部利用すればいいと思うが、おそらくその辺の縦分けの部分が行政内部の部署の縦分けでもあるので、それが少し効いているのではないかなという気もした。

それから、10周年の式典の時はツアーに参加した。たまたま宿根木のツアーに行ったが、もちろん地質の説明もあったし、北前船の話もあった。文化的な施設にもきちんと案内された。農作物のおけさ柿の話など、意外と広範囲に佐渡の面白さを伝えてもらったプログラムだったので、そういう該当のツアー等はある程度認識して出来ているというふうには印象があった。

私としてもグリーンを出して、しっかりとそこら辺の3事業との関わりを進めてくださいという話がい

いかなと少し思った。

委員：確認だが、赤玉石の販売は減ったというのと、停止しているという2つの事が書いてあったが、販売箇所が19カ所から14カ所に減った。停止しているというのは、採掘が停止したってということでのいいか。

委員：採掘は停止している。

委員：そこはしっかり書いてあげた方が良くないかと思った。

委員長：意見が分かれているが、地質公園化をどうちゃんと意識してもらうか。悪い方向に動いているのをどう意識してもらうかという時に、強いリコメンデーションでちゃんと効き目があるのかというのが1つ。

それから、グリーンで強いリコメンデーションだけで良いかどうかのその辺もう少し議論してほしい。

委員：イエローを出すかどうかということで、今後のスケジュール等も関わってくると思う。世界遺産登録に向けてかなり佳境に入ってきていて、2年で今回の指摘事項に対応していくという事はかなり重要になってくると思う。これでグリーンを出して4年間でやってくださいというのは、地域の流れ等が世界遺産にも傾いてしまったら、今回私達が伝えたいメッセージから離れた地域の動きになってしまう可能性がありそうで少し怖いなと思った。そういった意味では、イエローを出して早急に2年で取り組んでくださいというのは効果があるのではないかなと思った。

委員長：貴重な意見ありがとうございます。

その他意見がなければ決を取りたいと思うが、私としてはイエローで行きたいと思う。過半数で反対が多かったらグリーンで強めのリコメンデーションという形にしたいと思う。

リコメンデーションはもう少し書き直して、世界遺産と農業遺産を意識したものを少し繰り上げて明文化したものにすることと、3、4番目の事を2年間で出来る内容に変えて1番目か2番目に持ってくるという形でいかがか。

それではグリーンの方は挙手をお願いします。

(3名の挙手)

委員長：棄権の方は挙手をお願いします。

(挙手なし)

委員長：イエローの方は挙手をお願いします。

(10名の挙手)

委員長：ありがとうございました。

委員：1点だけ確認したいがよいか。

委員長：どうぞ。

委員：先程、飛び地がないかという話をされていたが、今見たら北側の二ツ亀島の部分がジオサイトに指定されていたので、厳密に言うと飛び地になる。

委員長：それもどこかに書いておいてほしい。

### 【議題③ 日本ジオパーク再認定審査：三陸】

委員長：それでは三陸の議題に移る。委員をお願いします。

委員：三陸の調査は私と調査員1名で行ってきた。

ざっくりと言うと前回の指摘事項1~9に対して、全ての指摘事項に対応が見られた。全て前進しているという意味では表に「○×△」を示していないが、甘めに見たら全て「○」になる。

少し△のようなところは、化石鉱物の採掘販売のところ。琥珀を売っている会社があるが、その会社とジオパークは対話を始めている。その会社はかなり積極的にジオパークに関わってくれているので、対話の進め方というのも上手くいっている。今後、どういうふうにしていくかというのは、リコメンデーション

のところで書き込んでいきたいと思う。改善を求める点の5番だが、販売業者だけに集中するだけではなく、エリア全体でこのような事を考え、調査をしていくということを進めていただきたい。地質物品のワーキンググループにも三陸ジオパークからメンバーに加わっており、積極的に関わっていく姿勢が見られるので、これに関してはイエローではなく前進していると把握している。

運営体制の強化についてだが、非常に広いエリアなので推進協議会だけではなく、その下に3つのブロック会議がありエリアを3つに分けている。さらに地域協議会というのがあり、全ての構成市町村が関わりながらボトムアップで協議していく形ができていく。

これが上手くいっているかどうかだが、今回の現地調査で運営体制が2か所に分かれていた事務局が宮古市に一元化して、現場に事務局があることで現場へのコミュニケーションがかなり増えたというのが見られたので、こちらも前進している。

専門員の雇用については、県庁職員で地質のDr.をもった方がいたので、その方が専門員として入っている。ただ、県庁職員なので異動してしまう可能性がある状況。ただ、人事で県庁職員の方を見つけてしっかり配置したというのはあまりない事だと思うのでこれも評価できる。

それにプラスしてコーディネーターの方が非常に良い動きをしている。広い地域なので、さらにコーディネーターをもう1人検討したいということで地域おこし協力隊の方を今年度中に雇用することで進めている。

ジオに関しても、専門員をもう1人、地域おこし協力隊から雇用したいという動きがでてきている。この事に関しても引き続きリコメンテーションに書いていきたいので、改善を求める点の2番に入れてある。理由としては、結局、職員の異動や地域おこし協力隊は、任期終了後の異動や任期終了後の運営弱体化のリスクは現状回避できていないので、これをどうするかというのは今の強い体制の中で進めていただきたいというような事を書きたいと思っている。

あとは評価点のところ、首長ツアーというのをやっており、これは広域のジオパークの1つのモデル。グッドプラクティスになると思う。構成市町村の首長が自らの地域を語ったり、他地域の良いところを見て、ジオパークの中で繋がりが出来たりしている。トップの横串が出来た感じ。担当者レベルの繋がりが強化については手が付けられていない。雑談レベルではあるが、市町村の首長とのヒアリングの場で、是非担当者の横串になれるような、担当者が転入した年度当初の担当者ツアーをやってもらいたいと伝えた。

また、津波被害や自然災害による質の高い伝承というのをやっており、個人的には広域で津波の記録が残っていることは、世界に発信するに十分な内容だと思っている。出来れば世界ジオパークを目指して進めていただきたいと思っている。伝承館のクオリティも非常に高い。

ジオパークかわら版というのをやっており、これは子供たちが色々な施設に入ったりしながら自分の興味のある事を進めるということで、これを複数の地域でやり始めている。これは特に評価してどんどん進めていただきたい。

広域のジオパークということで、ガイド育成の機会やトレーニングをどんどん進めているところが評価できる。

改善を求める点で出来るだけ早めに改善してほしいのが、7番目のジオパークのマップの作成。ジオパークマップがしっかりと出来ていない。あまりにもざっくりとした地図なので、飛び地があるのに気付くのに時間がかかった。2013年の新規認定当初では飛び地OKだったものがそのままになっており、飛び地に関してジオパークエリアを再検討していただきたい。改善を求める点の1番にもつながるところ。ただ、マップというのは、ジオサイトを示しているだけではなく、地形地質の情報等、様々な情報を入れたものを人に見せる、活用するということからマップが出来ていないので、そういった把握も中々進まないし活用もうまくできないのではないかと状況。したがって、ジオパークマップの作成を指摘事項に

入れている。

運営体制の強化は先程お伝えした通り。

3番の津波に関する情報資料の集約。被害に遭われた語り部が、生の声を伝えたり、伝承館の解説員の解説のクオリティの高さは素晴らしい。伝承館では年に3~4回の解説トレーニングがあるそう。一方で、科学知の集約がジオパークで進められていない状況。構成市町村の中で津波堆積物が見えると言っていた首長もいた。津波研究者との連携や調査をとおして情報や資料をためて、それをオンリーワンとして発信していくことが重要という意味で指摘事項3番を書かせていただいている。

4番はジオサイトの管理だが、地域内に118のジオサイトがある。これを上手く管理して価値付けをきちんと行えているかというのを自ら判断しながら、保護保全の計画を立てていただきたいということを入れてある。

5番はエリア内の地質物品の売買の事で、先程お伝えした通り。

6番もさらに前進していただきたいという意味で書かせていただいたが、やはりガイドさんの個性もあるので、まずは一般的に素晴らしいガイドというのはこういうものだと思える機会や実感できる機会を、外部講師を招いてしっかりと伝える機会が必要だと思っている。可能かどうか分からないが、伝承館のガイドのクオリティを見ると、伝承館のトレーニングにジオガイドが加わることができれば非常に良い機会になると思っている。

以上のことから提案はグリーンになる。

委員長：非常に丁寧にご説明いただき感謝する。

個人的にはこのまま投票に入ってもいいように思うが、質問等があればお願いしたい。

委員：1つだけお願いがあるのだが、非常に広域なジオパークがあり、そこと重なる形で震災復興の中で三陸復興国立公園を作った。従来の陸中海岸を北と南に拡大して三陸全体をカバーしている。それとあわせて青森県八戸市から福島県相馬市までつながるみちのく潮風トレイルというロングトレイルを地域と一緒に作ってきている。地域的にも重なるし、保全と利用の面でお互いにシナジーを高めていくと相乗効果が非常に上がると思うので、ぜひ広域のジオパークの取り組みと、復興公園と潮風トレイルと上手く結びつきを深めていって欲しいというお願い。

委員：ガイドさんの中でも潮風トレイルを往復された方がいたり、広域でカバーできるガイドさんがいたり、広域ではなくエリアごとという方々が繋がってガイドをパスできるような、次の方に引き継げるようなSNSを使った情報共有も行われているので、どんどん活用しており前向きに進んでいると思う。

委員長：すでに取り組みを始めている点で評価したいと思う。

そのまま投票に入るが、反対の方はいるか。

(挙手なし)

委員長：棄権の方はいるか。

(挙手なし)

委員長：全員グリーンに賛成ということになる。ありがとうございました。

#### 【議題④ 日本ジオパーク再認定審査：Mine 秋吉台】

委員長：続いてMine 秋吉台の審議に移る。それでは報告をお願いします。

委員：11月末に委員2名で行った。プログレスレポートにあった説明のみだと少し不安を感じながら行ったが、現地ですごく話を聞くとしっかりと対応している事が分かったので、2人ともグリーンを提案させていただきたいと思う。

前回の指摘事項としては1~7までであるが、対応がよく出来ているところは多く、対応状況が△の指摘事項は2~3件あった。完全に出来ていたり出来ていなかったりするものが入っているので、それで△に

なっている。

1の「国際的な価値とその発信」に関しては、ガイドのツアーを通してそれは伝わっていたが、まだ施設のリニューアルが途中ということなので、次のステップとして国際的な価値をみせるよう指摘事項に入れている。

3の「基本計画の作成と観光を推進する体制の構築」の△の意味については、観光を推進する部局と観光協会との連携が強化され、環ジオ会議という会議を設置して月1回観光協会と観光部局とジオパークの職員が会ってジオパークを含めた観光の推進についての協議を盛んに行っている。ただし、基本計画はまだ完成しておらず、2023年5月の総会で主な計画のスキームが決定されて、現在はそのスキームを充実させるという意味合いで文章化等、来年の総会に向けて動いている。スキームは出来ているが、策定は途中だという説明を受けた。

4の「岩石・鉱物販売」については、変化はあったが大きく前進したかということそれは微妙。商店街はそのままで、お店に出向いて話をしたり、より深くジオパークの理念を説明したりするという状況。

前と何が変わったかということ、商店街の皆さんと顔合わせして関係を作る環境ができたので、まずは関係を構築して今は皆が理念に納得するかどうかという段階だ。商店街にある店をリストアップしており、各店に岩石・鉱物を売っているか売っていないのか、現在は閉店しているのかしていないのか、どれくらい頻繁に地質物品の商売をしているのか、オーナーと対話が出来ているかどうか等、複数の項目を設けて、商店街を調べているという段階。

今後はどうするのかという確認をしたところ、そもそも商店街の事は町全体としてどう取り組んでいくのかという話になり、市のガイドラインで対応できないか検討するそうだ。例えば、閉店しているお店が多いので、新しくお店が入る時に市のガイドラインの中でそこに入る店はジオパークの理念に合ったような取り組みでないと許可がおりないようなことが出来るかを検討中。

次の指摘事項としては、サイトリストも出来てはいるが、モニタリングにまだ繋がっていないので、サイトリストのさらなる整備が必要。

ビジビリティについては、市民に対するビジビリティは高いものの、市外の方や観光客から見るとまだビジビリティが低いのでそれに取り組んでいただきたい。

施設のリニューアルがまだ途中なので、今後世界を目指すのであれば、国際的な価値を施設で解説すること、ラムサール条約湿地と協力すること、文化サイトと地形地質サイトの説明を充実することを指摘事項としてあげたい。

大きく変わったのはガイドの取り組みで、秋吉台の近くにある施設「カルスター」からいつでも出発できるような1人500円で約30分のミニツアーがあり、その受付をカルスターに常駐している認定ガイドが行っている。

今まで秋吉台のツアーが出来ているが秋芳洞のツアーに取り組みづらかったそうだ。最近は観光協会と観光部局の連携として秋芳洞の認定ガイドのツアーもできるように調整している。来年度から始めるという話を聞いている。ジオパークの認定ガイドは秋芳洞の中に常駐できないかもしれないが、すぐに駆け付けられるような形で当日でも受付できるようにすると聞いている。

委員、補足をお願いします。

委員：先程委員がおっしゃった通り、観光受け入れについて進んだのが大きな進捗だと思う。

あと、施設の改修に絡んで、質の高い改修を行ったが、その博物館や各施設の担当者を上手く巻き込んだということで連携の強化にも繋がっていると思う。

指摘事項のところでは、地質物品の販売はまだ残っている。具体的に何が変わっているかということ何も変わっていない部分もあるが、ある程度指針を立てて対応していこうという姿勢があったので、今までと内容を変えて、地域として地域の支援をどう考えていくかということに立ち戻って考えていただきたい

いという指摘をしたいと考えている。

委員長：以上の報告に質問、コメント等はあるか。

委員：1つ教えていただきたいが、指摘事項で自然遺産のラムサール条約の話が入っているが、ジオパークとの取り組みが十分に活用されていないという表現になっているが、どういう状況でどこまで何をすればよしとするのか教えてほしい。

委員：基本的に、資料を見たり話を聞いたりしてもあまり自然遺産が活用されていない状況。自然サイトが少ないということもあるのと、文化サイトとして分類しているサイトに重要な自然遺産があるが、それがあまり発信されていない。

あとは、ラムサールとの協力が全くない。現在は秋芳洞の入り口付近にラムサールの説明看板があるが、それ以外はジオパークとラムサールの協力が行われていない。解決はすぐできると思う。ラムサール湿地の担当者がジオパークの事務局長。事務局長が兼務で文化財保護課長もされており、ラムサール湿地と協力していないのは逆におかしい。Mine 秋吉台の地質的な事だけではなく、もっと充実した地域全体を説明できるのにまだ足りていないので、これに関しては強く指摘したいと思った。

委員：文化サイトの結び付きをとて説明されている地域だと思うが、それに比べると自然サイトの活用がまだまだというところ。

委員：承知した。

委員長：次、委員お願いします。

委員：ユネスコ世界ジオパークを目指すというのを先日表明されたので、秋吉台の東と西で活用の保全地域と、石灰岩を取ってしまう地域をどういうふうに分けていって、それが領域の中にこういうふう共存しているのだという事について何か書いてあげる事ができればいいと思う。それが良い例として、評価点として書けるのであればこの段階で書くのも必要なのかなと思った。

委員：通知書には盛り込んでいるが、地質物品の販売について指針を立てる中で、同じ地域内に暮らしを支えているような資源開発を行っている場所があり、一方では守っていきましょうという場所がある中で、地域の中でそれらを総合して未来に向けて資源をどう考えるかということをしちんと考えて取り組んでくださいというのを指摘しようと考えている。

委員：今の状況を評価するという感じか。それとも、まだまだ足りないからしてくださいということか。

委員：今の段階だと開発区と保護区をきっちり分けているので、開発区で出てきた端材なので使うのはあまり問題ないという説明だったりするが、これはおそらく問題があると思う。もっと根本的なところに立ち戻って、暮らしを支えているものではあるが、一方では未来に向けて持続的な利用になっているか考えなければならないものでもあるということをしちんと議論してほしい。

委員：そのメッセージを委員会ですら出すかというのが大事。

委員長：曖昧ではあるが5番の文章で、これしかないかという感じはしている。発掘中に色んな物が出てきたらそれを取り出して研究者にちゃんと見せるという事をやっている。

委員：科学博物館での化石採集の体験などに、開発区で採取された端材が使われていることなどもある。

委員：上手くいっているのであれば、その事を評価すると委員会としては言ってあげたほうがいいのでは。

委員：私はあまりそこを褒めたくない。理由としては、化石館の化石採集の体験があるが、パンフレットに美祢市でできる修学旅行等の教育のパンフレットを見させていただいたが、端材を使っているとかそもそも化石や美祢市における地質物品の扱いはこう考えているのでここでこのような価値を伝えて、これで子供たちが重要だと思ってくれるような体験だと全く触れていない。これは観光部局にも質問したが、科学館や職員の方は認識しているが、出している情報の中に入っていない。もう少しジオパークのチームだけではなく、他の部署が出しているパンフレットの中にもそういう視点を美祢市として出していきたい。

委員：それを指摘事項に書くと分かるのでは。地質物品販売と保全の活用についてはそこまで具体的に書いてあげたほうが伝わるし、他のジオパークにとっても Happy なのではないかと思う。

委員長：それは改定案を作っていたら確認する事にしたいと思う。

事務局：その時に「持続可能な」というキーワードもリコメンデーションに入れていただいたらと思う。

委員長：それでは決を取りたいと思う。今のコメント、改定案等を含めて棄権の方はいるか。

(挙手なし)

委員長：グリーンに賛成の方は挙手をお願いします。

(全員の挙手)

委員長：ありがとうございました。

#### 【議題⑤ 日本ジオパーク再認定審査：栗駒山麓】

委員長：次、栗駒山麓の審議に移る。委員をお願いします。

委員：栗駒山麓ジオパークは非常に質の高いジオパークの活動を展開している。一緒に行った委員とグリーンを提案する。11月中旬に現地調査を実施した。

過去の主な指摘事項の対応だが、「地質情報発信の強化」については、企画展等で対応されている。あと地質情報については地質図が設置されたが、その展示自体は不十分だったので継続としている。

「地質を専門とした専門員の雇用」については、雇用されたので解決している。

「山間部から平野に至る大きなストーリーの背景の認識」ということで、これについてはガイドさんたちが情報共有をして、ガイドの中で話をしている。

また、エムリバー等を導入してビジターセンターでも語れるようになったので、これについては解決した部分と一部継続した部分がある。それは指摘事項3の「ジオストーリーの拡充」にも関係するし、先程の指摘事項1の「地質情報の発信強化」にも関係する部分だが、火山地質に関する研究があまり進んでおらず、このバッググラウンドである約50万年前の噴火の次のストーリーが2008年の地すべりに飛んでしまうので、この50万年を埋める地質情報の拡充、地質の研究の強化というところが必要になる。それに関しては、地域は学術奨励特定部門としてこういったテーマで研究してほしいというのを提示して研究奨励をしている。なので、今後の研究蓄積が望まれるところなので継続にしている。

「解説看板の修正」については、ジオポイントが全てジオサイトに修正されたので解決。

「ロゴマークの可視化の強化を通じたジオパーク活動に対する地域全体の機運の向上」については、認定商品である「栗原山麓のめぐみ」という物があり、この商品の販売強化や販促グッズの開発が行われた。あと、ビジターセンターに直径5mのロゴマークが掲示され、遠くから見やすくなった。ただ、関連施設等に対してジオパークのロゴマークを設置することが出来ていないので継続にしている。

「地質鉱物標本の販売」については、細倉マリパークで販売されていたものに関しては、卸売業者及びこの管理者と縮小及び廃止で動いているので進んだ。ただ、ここで新たに砂金採りを行っていることが判明したので、これについて代替案を考案して下さいということで継続及び、今度の改善を求める点の5番に指摘事項として入れてある。

評価点としては、「2008年岩手・宮城内陸地震からの復興と関係者へのジオパーク活動への参画」ということで、荒砥沢地すべりの移動体内部の見学が出来るようになったので、中の道をジオパークが管理することになった。来年以降、現在関係者が協議しており、どういうふうに見せるかを議論している。

また、7名の犠牲があった駒の湯温泉の方がジオパーク活動に参画され、生業の復興についてもジオパークの中で語られるようになった。この点も非常に高く評価できると思う。

「質の高いジオガイドの活躍」についてだが、もう一人の委員がベタ褒めだった。「私は普段はガイドには厳しいがここは楽しみだ。」とおっしゃっていた。質の高いジオガイドが活躍していた。

市内全域でジオパーク学習が学校に普及したし、認定制度への参加事業者が増えてきており、看板に地元企業の広告を付けて広告収入等を得ている。地域や事業者においても非常にジオパークの理解が進展している。

これらが可能になっているのは事務局の運営能力の高さにある。運営能力の高さは評価できると思う。コスト、人員、組織についても非常に磐石で、これらの事が4年間のプログレスの要因になっているということで評価している。

リコメンデーションは8項目あるが、少し問題だったのは、管理運営計画がなくアクションプラン1本で管理運営計画を運用していたので、アクションプランから管理運営計画を独立させて運用するように求めた。

ビジビリティについては管理施設でジオパークのパンフレットを配布しているだけで、ここは管理施設だという部分のビジビリティが低いのでその向上を求めている。

ジオストーリーの拡充については先程説明した通り。

文化遺産については、実はいぐねやねじりほんによは、説明にはでてくるが文化遺産リストには登録されていなかったの、もう少しこの辺りの拡充を求めたいと思う。

展示に関してもビジターセンターの展示が非常にジオグラフィカルで、地理的な説明としてはいいけれども、サインエンティフィックな説明が非常に不足しているので、もう少し科学的な説明を加えてくださいという事をいれてある。

パートナーシップについては、非常に事業者の参加が多いが、パートナーシップ制度というものは導入されていないので、全体的な質の向上を図る上でも検討するようにお願いした。

最後の気候変動への取り組みについては、災害に関しては非常に良くできている。そこから気候変動へと取り組みを拡充させてほしいということで、半分提案ではあるが、最後の気候変動の指摘をいれてある。

非常に良いジオパークだったのでグリーンでお願いしたい。

委員長：今の報告について質問、コメント等はあるか。

委員：プレスリリース案を見て質問するが、移動体の内部の見学が可能というのは要するに露頭が見えることなのか。それとも、トンネルを掘って中が見えるということなのか。

それから、養殖についても具体的に何か補えればと思った。

委員長：それは、この後でやります。他に質問、コメント等あるか。

委員：事務局の方は何人いるのか。

委員：事務局は11名いる。この中で地域おこし協力隊が2名で、正職員で100%動いているのは10名。事務局長は退職された方で、100%事務局長で務めている。

委員長：非常にちゃんとした体制。

事務局：事務局長がプログレスレポートで50になっているのは何故か。

委員：それは次長兼室長で、事務局長は実はこの1番目にいなくて4番目に書かれている。上が行政職員で、4番目以降が専属の職員になる。

事務局：承知した。そしてここにまた1名追加されることでいいか。

委員：災害ボランティアの経験を持っている方が、地域おこし協力隊で専門員として今年の10月に着任された。

委員長：始めは地域おこし協力隊に依存した組織だったが、だんだん変わってきて非常に強化された。

ということで、グリーンで投票したいと思うが反対の方はいるか。

(挙手なし)

委員長：保留の方はいるか。

(挙手なし)

委員長：グリーンに賛成の方は挙手をお願いします。

(全員の挙手)

委員長：ありがとうございました。

(記者発表資料作成)

#### 【議題⑥ 山陰海岸ユネスコ世界ジオパーク状況確認】

委員長：それでは午後の議題に入りたいと思う。山陰海岸ユネスコ世界ジオパークの状況確認ということで、今回調査に行っていたいただいた3名の中から報告していただきたいと思う。

副委員長：山陰海岸の事前確認の状況の簡単な説明をする。

10月10日から12日までの3日間、私と委員の3名、一部日程でJGN事務局長も同行していただいて現地調査をしてきた。

主にプロGRESSレポート、前回の審査の時の課題がどれだけクリアになっているかというところで、山陰海岸から事前に提出されていたプロGRESSレポートも曖昧な箇所があり確認をしなければいけない箇所もあったので、1日を費やしながらかプロGRESSレポートの確認とディスカッションを行った。

私の印象としては、初めて山陰海岸に行ったが、事務局の色々な動きやプロGRESSレポートに対する対応は解釈の仕方が若干浅いところや、色んな人達の思惑があって徐々にしか動いていないところもあった。それを1つ1つこれはどうなのかという議論を長い時間をかけてやった。

現地調査も特にロゴマーク等の可視化の部分、新しく出来た鳥取市の砂丘にある施設等を見学させていただいた。フィールドに関する私の印象としては、皆さん個々に色々な活動しており良かったと思う。

あと、非常に大きな地質物品等の販売についても販売事業者の方達とも直接対話することができた。

この事前の調査に行く前に現地でもタスクフォースで検討したり、ワークショップをしたりということで、随分と事業者の人達と対話が進んでコミュニケーションがとれてきており、徐々にだと言いたいことを言えてきているようになってきていると思う。

まだまだ、進んでいるところと進んでいないところがあったので、事務局がようやくそれを認識されて、課題の解決に向けて着手されてきたのかなという印象があった。

委員2名からも報告をお願いしたい。

委員：最初に認定された頃から山陰海岸を見ているが、運営がいつまで経っても進歩していなかった。

鉱物販売は最初からあった問題で、最初の世界の審査はジオパークは関係ないということで通してしまったが、それでは今後まずいという問題意識がきちんとずっと引き継がれていなかった運営の問題がとても大きい。長年、中身が進歩してこなかったのは運営の問題。今回、世界の審査でイエローカードが出たことで少しでも変わってくれば良いと思う。

委員：基本的には運営体制に関する部分は、現地確認の時はほぼほぼ改善されていない。その改善を促すために、現場に行って直接お話をしてきた。結局、事務局が指摘された事の意図をあまり分かっていないというのが正直なところ。

その一方で、会長および知事と直接お話をすることができた。会長とお話をした中では、「なるほど、そういう事が言いたかったのか」的な理解や、実際に3知事で動き出さなければ運営体制の抜本的な解決には至らないというところまで理解していただけたと私は思っている。何をやるか分からないが、具体的に大きな流れがでてきた兆候というのは確認できた。

問題は、事務局は目の前にある課題を何とかやっつけようという体で今までずっときていて、実はその

やり方そのものが問題解決の糸口にはなっていないこと。指摘事項への対応に対するやり方そのものを変えなければいけないという理解がまだ十分にできていないのが大変心配。

副委員長：事務局からもお願いしたい。

事務局：私も10月9日から調査が始まる前にお会いしたり、10日は丸1日同行させていただいた。JGCに提出されたプログレスレポートで、先程、事務局のトップという言い方をされていたが、ジェネラルマネージャーが導入されて、そのジェネラルマネージャーの位置付けが事務局の外だったということを今回認識した。位置付けがとても微妙で、事務局として動いている方ではなかった。レポートもそうだったし、実際に行ってもそうだった。

先程、委員から説明のあった会長との面談の時、私も一緒にいたが、直前になってから会長と私と調査員3名だけで面談をさせていただきたいということで調整させていただいて、会長と腹を割って今回意見交換をしたいということで皆さんコメント等をお伝えしたところ、後日事務局から聞いたが、会長が大変喜ばれていて、構成市町の首長会議があった際に、調査の対応に入った時のことなどを会長自ら説明されたりということもあったそう。その後の懇親会でもお話できたことも含めて、会長はとても喜ばれていたし、事務局にとってもそれは良かったというふうに聞いている。

なので結局、しっかりと情報がいっていなかったという可能性も考えられる。また、事務局体制については改善が必要だということを繰り返しお伝えいただいたが、どのように改善するのかというところがまだまだ見えていないように思う。

委員長：今の3人の現地調査の感触と、同行した事務局長からの感触、それからそれ以降の動き等について紹介いただいたが、これは提出してしまった通知書については触れなくてもいいのか。

事務局：メーリングリスト上で皆さんにもご確認いただいて、11月6日付ですでに委員会から調査の審査事前確認の結果通知を発出している。

委員長：承知した。委員の方が問題なければ次にいくが、もし確認したいことがあれば質問等をお願いする。

指摘事項の1番上には緊急に着手することとして物品の販売、2番目に運営、3番目にロゴマーク関係、4番目に環境省との連携、5番目に認定商品の仕組みをきちんとすること、あと玄武洞のアクセスについてコメントをした。

2年以内では、ジオパークトレイルの冊子の中にエリアをきちんと明記すること、8番目はネットワーク、9番目はマーケティング、10番目は記念碑の活用、11番目は対話の重要性というようなりкоменデーションを会長宛にすでに送っている。

事務局：6番の玄武洞公園への安全なアクセスというのはユネスコからのリкоменデーションに入っているが、現状では、車いすの方が来たら人力で運び上げるというのと、メーカー名は忘れてしまったが、車いすごと上がっていけるような電動車いすがあるので導入を考えているという説明だけで、誰もが安全にアクセスしたり登ったり降りたりできるような状態ではなかったもので、これをリкоменデーションに入れていただいた。

委員長：これ以降はアクションをとっていないのか。

事務局：豊岡市もこれが精一杯というので出来ているつもりだった。玄武洞公園のビジビリティについても、出来るだけロゴマークを少なくしたいというような事も豊岡市のスタンスとしておっしゃっていたと思う。デザイナーの声大きいというようなことも言っていたが、そこはビジビリティを上げるようにリкоменデーションに書いている。

委員長：言い始めると色んな事が出てくる。

今までのところで質問等はあるか。

一同：(質問、コメント等なし)

委員長：なければ、今進んでいる地質販売関係のタスクフォースについてお願いする。経緯と3回目のタス

クフォースまでについて委員お願いする。

委員:これまでに3回のタスクフォースが行われた。1回目と2回目に関しては、前回は報告したと思うが、第3回のタスクフォースが12月5日の10時30分から12時まで行われた。JGCからは副委員長と私、JGNからは事務局長と地質物品の収集・販売を減らすための情報発信ワーキンググループのリーダーが出席した。その時に第2回のタスクフォースで協議会に提案しようというような内容が話し合われた。

まず1つ短期的な対応ということで事務所の移転。玄武洞の観光ショップに事務局の一部を移転して賃借料の支払いを発生させるような話があった。あと、駐車場の借り上げを協議会又は豊岡市がミュージアムの駐車場を玄武洞公園の駐車場として借り上げ、そこでまた賃借料の支払いが発生するという2件。

あと、長期的な対応の提案として、商品開発、ツーリズム、経営、体験学習、といったものが第2回であげられた。それを受けて、2県市町の担当課長会議という会議で10月3日に上記の案件を課長レベルの方達で話し合っていた。

最終的には組長の判断が必要であるというところで、考え方を共有し終わったような形だが、基本的にはその下で構成自治体の連携会議が4番で報告されているが、ここでタスクフォースの提案について協議していただいて、協議内容のところの短期的な対応案については、こういう賃借料が発生するので行政としては当然の判断になると思うが、一事業者に肩入れをして賃借料を支払うのは中々難しいということになった。協議会として一事業者への特化した予算の執行や補助金創設は実施できずというところ。これは正しい判断をされたと思う。

それでどういうふうにしていくのかというのが今後議論されると思うが、今後のロードマップというのが示された。先程気付いたが、フェーズ1は次回の世界審査までになっているが、先程の指摘事項を受けるとおそらく5月までが適当なのではないかと思う。

このような形でかなり長期的な対話をもとに、代替の収益事業の検討や実施ということでロードマップが敷かれている。

ここででたタスクフォースの意見としては、フェーズ1の短期的にどのように対応するか計画が全くできていないので、長期的なロードマップを敷くのもいいが、再認定審査に向けて一番短期的なところをもっと細かくどういうふうにしていくのかの計画立ててくださいという意見がでた。

あと民間からの視点として、こんな長期的な視点で対応しているのは非常に結果が出づらい、そのままだったらしてしまうような気がするので、2年位に区切って、そこまでに何をすればいいのかというのを考えて進めてほしいという意見がでた。

タスクフォースと並行して円卓会議というのが開催されている。円卓会議では山陰海岸ジオパーク推進協議会2名、販売事業者とミュージアムの方が1名ずつ参加し、円卓会議で会話を生み出して進めている。第1回が9月11日、第2回が9月27日に行われている。第1回でお話された内容が担当者レベルで対話が進められるようなことではないという事で、責任者の社長、ミュージアムの方が出席された。真剣に取り組み始めており、決定できるような方を巻き込んで円卓会議が進められるというのは、第1回から第2回で1つ変容が起きたと思っている。

タスクフォースででた協議内容や、事業者側からの考えの意見交換を進めるということで第3回が11月10日に行われた。これは先日のタスクフォースで共有された。JGCの現地確認の結果等も共有され、長期的にどういうふうに対応していくのかという話を進めている。代替物の開発の検討や、業者と繋がりを作ってレプリカ等何かできないかという話を進めた。あと、六角形にお菓子を切る機械を導入して、商品開発を目指したり、補助金等も探していきましょうという話がでたりした。あとはコンサルタントを入れてアドバイスをもらうようなことを進めていこうという話もでてきた。

体験活動で山陰海岸ジオパーク推進協議会とコラボして実施するというような話もでてきている。

これらもタスクフォースの中ではこの一事業者だけではなく、山陰海岸ジオパークの様々な事業者を

対象としてこういった事を進めてはどうかというような意見が前回でた。

変化したのが11月11日の販売状況ということで、赤で囲まれているところが現物の鉱物ではなく、レプリカ等の商品を試験的に導入した場所になる。なので、今後どのようになるかは分からないが、すでに売り場のほうで売り場面積の一部を実物の鉱物を販売するのではなく、置いてあった場所をレプリカに代替してどのような動きが出るのか今後見られると思うが、そういった意味ではショップのほうも考え方を少し変えられて試験的に実際の動きを生み出しているということになると思う。

このような事が報告されたが補足があればお願いしたい。

事務局：レプリカ等を置いたという場所はもともと主に化石を置いていた場所だった。化石の販売からまず止めるということを試みていることだそう。

副委員長：委員が詳細に説明いただいたので、内容と棚の変化というのを私達もタスクフォースで見せていただいた。

全体的に、お互いそれぞれの課題を確認しながら、どのような事を出来そうか話し合いが進んでいるというのがとても前向きな印象を受けた。こういう化石に代わるジオグッズに関しては、地質物品の収集・販売を減らすための情報発信ワーキンググループのリーダーからワーキングのスライドの事例等も見せていただいた。地質に関わるような色んな商品は各ジオパークでも採用していたりするので、そういった情報を集めながら何か方向性を見つけていくといいという話も出ていたと思う。

委員：先程話しそびれたが、第2回でも出て来た話でもあるが、再度念押しで円卓会議やこれまでの対話の内容、あとはこのタスクフォースの内容をまとめた議事録を公開してくださいという意見がでた。

これは最終的に、再認定審査までにどのような形を結果として見せることが出来るのかといのは別として、そのプロセスを世界にリアルタイムで発信できるということがとても重要な事なので、まずは今の動きをきちんと英語化してそれを見られるような形にして発信しましょうという意見がでた。これは非常に重要なところだと思う。

委員長：ありがとうございます。

円卓会議という形で実際に事業者と関係者が話して解決策を探ったが、結局それは一事業者をサポートするような案でしかないので、行政的には中々受け入れられないという中で、それよりも一事業者以外を含めた全体的なグッズ販売をする方向で進めたほうがいいのではないかという方向にきていると思う。

細かいところは分かりにくかったかもしれないが、質問等あれば願います。

委員：化石というのは、山陰海岸のオリジナルの化石をそもそも売っていたのか、それとも全然縁もゆかりもない地域の物を売っていたのか。

委員長：基本的に山陰海岸の化石は置いていない。三葉虫やアンモナイトなど。

委員：要するに、仕入れた物を売っているということか。

委員長：そう。鉱物に関しても全く同じ。

委員：そういうセンスで言えば、特に地域に根差したものでもないのに、逆に言えばレプリカではもっと普通の化石であろうと本物っぽく見えればあまり変わらない。

委員長：売っている側としては儲かればいい。

委員：利益率が高いかどうかの話か。

委員長：そう。

委員：県も関わってやっているのだから、例えば、兵庫県にも兵庫県立大学や博物館にも化石の専門家がおり、そういう方たちはレプリカを作るのがとても上手。私自身も大学でレプリカを作って子供たちに見せたりした。子供たちにどっちが本物か当ててみてというと、たいてい私の作ったレプリカを選ぶ。誰でもそれぐらい作れるので、イベントみたいな形でやっても面白いし、そういった所で本物の代わりに売ってもいいわけなので、そういう取り組みがあってもいいのではないかと思う。そうすると、県の他の組織の大

学や博物館の連携も生まれてくるし、何かしら化石を売っていたところも、化石に関わりつつも化石を売らないでここでの活動が継続できることにも繋がる気がする。

委員長：ここは特に化石を売ることが目的ではなく、単に収益事業としてやっている。

県立博物館は入っているのか。

委員：入っていないが、前に頓挫したレプリカのワークショップの準備として、県立博物館との繋がりはずでにできていて、クオリティの高いレプリカを作れる方にご協力いただける話はいただいていた。

委員：そういうのを例えば、作る人を探す等色々あると思うが、化石を使ったミュージアムなので、見せたり売ったりすることで人に来てもらう意味もあると思うので、同じものが作れるから買って自分もやってみようというようなやり方があってもいいのかなと思う。

委員長：売っているものと展示しているものは必ずしも対応していない。レプリカを作るのは展示してある物の方がいいと思う。

売り場面積の多くは鉱物。化石は窓際に一つの棚があるだけで、実際多く売っているのは鉱物。それをどうするのが問題になると思う。

委員：化石を売るのをやめて、鉱物メインの販売になってしまったらあまり意味がない。

委員長：実際売れているのは鉱物のほう。

事務局：方向性としては、同じような話を現場でも円卓会議等でもしている。先程、現地に行った感想で伝え忘れていたが、実際にお会いしてお話をしたが、かなり前向きに地域のために何とかしようということでは同意の上で、売り上げを他のもので確保できるのであれば化石や鉱物の販売をやめてもいいが、ただし理念の理解というのは途中まで理解できたが、なぜ個人の欲求を満たすところまでをやめろということかという辺りはまだ納得できていないと本音をおっしゃっていた。考えていただいているからこそ、ぶつかってきていただいたという感想を私は持ったし、かなり歩み寄っていただいている。むしろ行政のほうがか色々遅い。

なので、この前のタスクフォースでも先程の委員のアイデアのように何とか売れ筋の商品を化石のレプリカだけではなく、地域の特産品も含めてできるだけ利益率のいいもので何か作れないかという話は今でているところ。アイデアや情報があればぜひ山陰海岸に届けたいと思っている。

地域のアーティストの方の作品も同じような BOX の中に入れて、おそらくスペース貸しのような形で委託販売をされているコーナーもあり素敵で買いそうになった。そういうところをもう少し伸ばしたら、結構まとまった金額の商品だったりもしたので、売る方からしたら委託なので利益率はまとまった金額ではないかもしれないが、そういうものを積み重ねていくことが今大事なフェーズなのかなと感じた。

委員長：その他、意見はあるか。

タスクフォースの方向は、もう直接事業者とお金が絡む話はしないという方向なのか。駐車場料金や事務所移転など。

事務局：その話は私も確認したが、駐車場や事務局の一部をインフォメーションコーナーのような形で今販売しているこれらのスペースを、ジオパークの事務局が一部ここに入るというような案もでている。実現性の低いと言われている案の1つ目と2つ目。これは完全になくなったのかと確認したら、完全になくなったわけではないが実現可能性が低いということと、首長さんたちの意見としては、借りて賃料を払うのは当然ではないかというご意見も書かれていたので、そういう意見もあったのですねと確認させてもらったら少数派ですというふうに回答があった。可能性はかなり低い以案としてなくしたわけではないという位置づけ。

委員長：ただ、タスクフォースとしては、今進むようになった方向として進んで行くということ。そういう意味で指摘時からかなり進歩したと思うし、この進歩の状態をきちんと国際的に発信して審査員にも理解してもらえれば、カウンスル会議も何とか上手くいくのではないかという見通しはある程度ある。

その他、コメントはあるか。

委員：今回、12月初旬に提出されたプロGRESレポートに日本語があると思うが。

委員長：それは今からやる。

委員：承知した。

ちなみに11月にコーナーを変えた場所の売り上げやお客さんの反応はどうかの情報はるか。

事務局：まだ聞いていない。

委員：承知した。

委員長：もともと化石を買う人は少なかった。

事務局：少し小ぶりの物だった。

委員長：それでは、プロGRESレポートを用意しているが、その日本語版について。これはもう来週の初めにはfixしたいと思うが、それについて解説をお願いする。

事務局：12月8日のJGCのメーリングリストに送付しているものを再度送付する。スライドでも共有している。

委員長：このどこが問題になっているのか。

事務局：色々問題がある。一度、11月にDの部分だけは下書きを送っていただいていたおり、そこに私がコメントを付けたものを委員会にも回覧したところ、特に追加のコメントもなかったので、コメントを付けて再提出を他の部分も含めてしていただいたのが今回12月8日にお送りしているもの。

リライトはされているが、まだまだ分かりづらさや、本日の午前中の議論の中でもあったように、これを行ったあれを行ったという記載が多すぎるので、これを行ったから失敗したから反省をして次こうやった等のその展開を書くべきだとコメントしている。この時には理解できなくてショックを受けたというのも含めて、変化が分かるようにどうにかならないかと考えている。今回のプロGRESレポートについては、プロGRESレポートの部分だけでいいので先程委員長からもあったように12月18日の正午までにコメント等を入れていただきたい。

山陰海岸では最終的に1月末にユネスコに提出するのは英語版のみなので、Dの部分はコメントが入る可能性があるだろうということの後で後に回して、他のところを先に英訳を並行して始めていると聞いている。

委員長：委員をお願いします。

委員：書き方としてだが、例えばリコメンデーションAの改善状況等々が箇条書きでやたら長くて経過報告のみみたいな感じになっている。先程、事務局がおっしゃったみたいに見えるが、全体的にこの書き方が踏襲されていて、結局何がポイントなのかが非常に読みにくいので、来年現地審査員が来た時に話をしてもらえばいいわけであって、もっと要点をまとめて修正できないかという気はするが可能か。

委員長：できるのではないか。

事務局：ただ、箇条書きが短いというのが前回のパターンだったが、もう少し丁寧に書きましようと言ったらこうなった。あまりにも中身がないのであればせめてしっかりとやったことは入れてほしいという思いもあるが、やったことだけというのは確かにまずいので、それをどう伝えたらよいかだんだん諦めも入っている。どう伝えればその変更が上手くいくか。

委員：結構あっさりしているイメージがあって、紆余曲折あったり変容したタイミングを読み取ったりとか、それを起こしたアクションに対応してどのポイントでそういう事が起きたのかというのを詳細に記載しないと、最大限の努力をしたというのを示さなければいけない状況で弱すぎると思う。

1つは図を作成したほうがいいと思う。結局、ストップできなかった結果になるのであれば、出来る限りの自らが行ったアクションと起こしてきた変容というのをはっきり明示できるように図は絶対必要だと思う。なので、後退した部分や停滞した部分、新しくできた繋がり等のそういうことをそこに書き込ん

で現地審査に来られる方にしっかりと見ていただく必要はあると思う。

委員：今の話は、時系列的な年表を作るとのことか。

委員：時系列で作ったほうが一番分かりやすいかと思う。

委員：タイムスケジュールというか、一目で分かるプロセスで、何がいつ起こったか、誰が何を始めてという話でよいか。

委員：はい。

事務局：そういうふうにお伝えすると、何の会議をいつしたかというだけの一覧表が出てくる。

委員：そこで何があったかを書いてほしい。

委員長：ちゃんと読むと、理解は深まったとか何をすることに決めたとかは書いてある。

事務局：改善はされてきている。

委員長：書き方だと思う。

委員：太字を使うのはどうか。

事務局：もともと他の地域にもよく伝えているが、最後は英語になるので、訳しやすいように、かつ分かりやすく下書きの日本語を書いてくださいとお伝えはしていたが、もう少しシンプルにしてもいいかなとは思っている。

委員長：英語で項目ごとに最初に要約を書いて、それをエビデンスとして何月何日に何をやったと書くのはどうか。

事務局：それがいいと思う。

委員：分かりやすくなるか分かりにくくなるか微妙なところだが、指摘事項の中で「*Collaborate therefore with Toyoka city*」とあり、豊岡市やJGCに日本ジオパークネットワークとコラボしてやって下さいと書いてあるので、指摘事項の対応として豊岡市がもし方針を持っていれば、その方針を数行で書いて、豊岡市はこうだったが色々協議した結果、豊岡市の最新の方針はこうですというような明確に3行4行だけでも書くといいと思う。指摘事項やカウンスルの協議の中でも豊岡市が課題として出されているので、もう一度そこを明確に、市民も取り込んでいるというのを書くといいなと思う。構成自治体を中心に色々書いているが、豊岡市の事は書いていないので、もし中身があるのであれば追加したほうがよいと思った。

事務局：それはカウンスルの中でもいまだに結構混乱をきたしている。この施設は民営と分かっているが、土地は市の土地だと勘違いしている人が半分くらいいて、その時点では分かっていたのに後日話すと、あれは市の土地だから市からもっと言えるよねと言われてたりした。だから違うでしょというふうに最初に話が戻る。だから豊岡市がすごく出ていたというのもある。

ただ、行ってみると販売の問題だけではなく、アクセスの問題や、豊岡市の判断や協力ができないビジビリティの向上とかもあるので、確かに豊岡市がどう考えてどこまでやったかというのは出来れば入れたほうがいいと思う。でも、おそらく今はほぼ書けることがないのも現実かもしれない。

委員長：豊岡市という書き方をしておらず、豊岡市を含むという書き方にしている。

委員：ぼんやりとした書き方が通用するかどうかだが、理解を深めていったとか、誰が何を求めて判断したのかを示さないと、おそらく現状が正しく評価されない恐れがある。議論を重ねたというのもどういう議論なのかクリアしておかないと「本当に？」という感じで見られてしまう。せっかく努力したものが判断材料にならないというのはとてももったいない。資料を作るなり、表や図の時系列のものは継続的にアクションを起こしてきた証拠になるので、それは必要になると思っている。

委員：各会議の議事録が起こされているのであれば、それも1つの添付資料にするのはどうか。

委員長：それを全部英語に直さなければいけない。

委員：現地審査まであと半年ある。

委員：それに関連して言うと、添付資料が多すぎてこれは全部本当に提出されるのか。

事務局：その話も事務局とした。確かにいないのが半分くらいあって、訳しておいて現地で見せるのには役立つかもしれないものも含まれているので、今回添付されているものを全て英語に訳して添付するのはしない方がいいと思う。そういう話はすでに担当者としている。

委員長：10 ファイル程の Annex がついているのは普通。

事務局：数はそうだが、タスクフォースメンバーのリスト等は今いない。つけられても何のことが分からない。

委員長：これは向こうの勘違いもあると思う。

18 日の午前中までにコメントをくたさいではなく、コメントを反映したものを作成したいので、まず事務局に各個人の意見を伝えてもらって、それを上手くまとめて文章化したものを月曜日の午前中までに用意したい。提出されたプログレスレポートを見て、皆さん気付いたところを言っていただけたらと思う。

委員：1 点だけ確認したい。

委員長：どうぞ。

委員：山陰海岸の海域はどう決着したのか。

委員長：海域はまだ地図の中に入っていない。

委員：その議論も特にしていなのか。

副委員長：今回確認して、海域はまだ決めていないという話だった。海域についてはきちんと議論して決めるようにしてくださいということをお伝えした。

委員：それが決まった状態でトレイルマップのほうにエリアをきちんと反映させていくということ。

事務局：今回の結果通知書にもその事は書かれているが、すぐには無理なので、海域をどうするのか検討を始めて、数年後に決着すればいいということ。

委員：承知した。

委員長：それも本当はアクションプランにきちんと書いたほうがいい。

事務局：今、JGC としては 2 年以内に解決すべき課題としてお伝えしているものの 1 つ。

委員長：JGC がだした課題もロードマップの中に書き込みできるものは書き込んでいただきたい。

だいぶ時間をかけているが、文科省側から何か提案等はあるか。

文科省：特に具体的な提案はないが、委員の皆様方が発言していた通り、私も読ませていただいたが分量は多いが何を言いたいのかが分からないと思ったので、そこが分かるように書いていただきたい。

特に英語にするのを前提にすると分からないところが多々あり、そもそも日本語の意味が分からない部分と、現在色々なことが行われている背景事情を理解していれば分かる部分もあるが、背景事情が全く分からないところも結構あるので、それを英語にするのはなかなか大変だと思う。

あと、首長が集まって方向性を協議したという文章があるが、方向性がどうなったのか結果が書かれていない。こういうのが多々ある。時間との戦いだと思うが、出来るだけ修正したほうがいいと思う。

委員長：ありがとうございます。重要なポイントなのでそれも加える。

次、山陰海岸の今後のサポートについて。

事務局：以前に、現地調査とは別に委員がサポートに赴いてワークショップを開催したり、マスコミの方の勉強会をするのであればそれをサポートできますよという話をしてくれているが、今のところそれは JGC が行ってという具体的なものは一旦白紙に戻ってしまったので、具体的な案については今はない。ですが、来年の evaluator が 5 月以降、8 月 15 日までの間に入る予定なので、それより前に現地に行ったり何らかのサポートはすべきなのではないかということで、ご意見があったらいただきたいと思う。

マスコミに関しては、やはり、先日委員がおっしゃった新聞記事の一部がいまだに「GGN による審査」

など、いつになったら修正していただけるかというやり取りを事務局としたところだが、1人の記者が分かって別々の記者が間違っただけの前を上書きして書くんだということをおっしゃっていたので、やはりこの前のタスクフォースでも案が出たが、ジオパークに関心のある市民の方に対するワークショップだけではなく、もっと広く地域の人にご理解していただくためには、まず、マスコミの方にもご理解いただいてそれを広げていくという流れにもっていきたいので、やはり勉強会が必要ではないかという話が出ています。これは山陰海岸の事務局長もそういう認識でいらっしゃるの、マスコミ対象の勉強会というのは山陰海岸の事務局としても計画していきたい意向。

委員長：これは最初から行っていてなくなったわけではない。

事務局：なくなってはいないが、いったん日にちまで決まりかけていたのが全て白紙。

委員長：後ででてくるが、JGCの研修会をこの場所でやる時の1つのアイデアとしては、我々が現地に行ってサポートをする、あるいはオンラインで会議をするのが手かなという気がする。

事務局：それにちなんで、今後の研修会について。

今年度のこの委員会が終わった後の明日の審査基準検討会議を経て、あと1つ事業としてはフィールド研修を予定している。ただ、今どこでいつ誰が行くか、オンラインでやるのか等はまだ全然決まっていない。山陰海岸のサポートが必要だろうということで、事務局からいただいている話では、今日の深夜便で姉妹ジオパークであるレスボスに3名行くので、そこで2月頃にニコラス・ゾウロスさんに日本に来てくれないかという話をする予定だと聞いている。それが確定すれば、その時に合わせてJGCとして行ったりオンラインでサポートしたりするのを実現できないかというふうに考えている。

委員長：ありがとうございます。

それでは一旦休憩に入る。

(休憩)

#### 【その他確認事項】

委員長：それでは再開する。

次、その他の確認事項だが、重要なのは「エリア変更時の海域の取扱い」について。事務局から解説と画面共有をお願いしたい。

事務局：今回も解決すべき課題の中で海域も入れることを検討するようというリコメンデーションがいくつか入りそうだが、飛び地はいけないということで飛び地にならない整理は大分徹底が進んできているところだが、一部飛び地が島で残っていたというのが三陸で発見された。

改めて確認をお願いしたいのが、第29回日本ジオパーク委員会が2016年12月9日に開催されているが、その時に南紀熊野ジオパークの飛び地解消に向けたエリア変更申請が出ており、その時の資料として、「現存するジオパークがその面積の変更する場合で、変更量が既存エリアの10%以上である場合は新規ジオパークとして取り扱うものとする」と書かれている。要するに、新規の申請。これはもう皆さん認識が行き渡っていると思う。

2段落目の「ただし、一般的な領域の設定のために海等の水域を取り込む場合においては、水域の面積は変更量に参入しないものとする」というふうに第29回日本ジオパーク委員会で確認をされている。

ただ、これは当時の議事録にしっかりと残っていなかったり、追加資料だったのでweb上にもアップされていないものなので、本日改めてご確認いただいて、この取り扱いでいきたいということで今日はしっかり記録にも残したいと考えている。

これまでの経緯を言うと、今まで特に島の場合等の海のエリアについては、今も長方形のエリア設定になっている所が2つあるが、海についてはどんな線引きでも問題はないとJGCとしても言ってきてしま

っているが、最近のユネスコ世界ジオパーク・カウンシルの議論を聞いていると、やはり海域についても何らかの意味のある線引きが必要で、かつ出来れば既存の境界を活用すべきだというような話になっているので、四角に設定されているエリアの再認定審査に行かれる場合は指摘をしていくことになると思う。それで、10%を超える所が出てくるとは思うが、海に関しては今まで認めていたエリアから既存エリアの10%以上を超えての変更量に参入しない、超えても新規扱いしなくても特例として変更申請でいいですよという取り扱いになると思う。

委員長：説明ありがとうございます。これはすでに決めていた事だった。

この説明で分からないところがあれば質問をお願いします。

委員：参入の「参」が「算」になっている。

事務局：「参入」という表現ではないほうが分かりやすくないか。新規申請の必要性がないとはっきり書いたほうがいいのか。

委員長：「面積に参入しない」という表現は確かにおかしい。

委員：「再認定時、審査を申し出ること」はどうか。

委員長：もちろんそう。領域変更は全て申告しなければいけない。

事務局：今は申し出るだけでなく、ちゃんとエリア申請変更をもらっている。

委員：「エリア変更申請をしてください」と書くのはどうか。

委員長：付則で10%を超えてもということではないか。

事務局：そう。

委員長：それがないので文章としては分かりにくい。

委員：10%なのは陸域のみが対象になるのか。

委員長：そう。

事務局：これはもともと海のエリアを含めていたら既存エリアというのは海も陸も含めると思うが、水域に関しては、今までは線引きは一筆書きになっていたらいいと言っていた。その前は一筆書きでなくても認めていたという2段階があり、それは過去にJGCが承認していたことを修正するために10%を超える場合は新規扱いではなくエリア変更申請をして認めてもらった場合はエリア変更が成立するという取り扱いのことを書いていたが、意味が分かりにくいのでこういうふうにしてはどうかということ。

委員長：第29回日本ジオパーク委員会の審議内容を確認し、文章の修正の上、議事録に記録する。

委員：「一体的な領域の設定のために」と書いてあるが、例えば、三島村は四角で一体的であるが、次の再認定審査の際に四角がおかしいと言われて検討した後も10%以上変更したら新規申請になるのか。

事務局：新規申請になってしまうので、「一体的な領域設定のために」もやめたほうが良いと思っている。

委員：今回の場合は、分かりやすいように「エリア変更申請（海域）」という表題にして申請するようになると、審査ではなく申請だと事務的に分かりやすくすることを表明したらいいかと思う。「一体的な領域設定のために」をとる。

事務局：「取り込む場合」をやめて、「改める場合」はどうか。

委員：「追加する場合」はどうか。

事務局：追加とは限らない。

委員長：削減の場合もある。

湖沼の例はあるのか。

委員：磐梯山のような感じか。

委員長：磐梯山は入っていないのでは。

事務局：そういう議論が再認定の調査に行くときに毎回発生しそうなので、「水域」という言葉は残しておいたほうが良いと思う。

委員：(海域)ではなく、(水域)がいいということか。

委員：伊豆沼も行政界では半分切れている。

事務局：その問題もある。

委員：意味的に湖沼の中に川は入っているのか。

委員長：入らない。湖は閉じている。

委員：先程、川の半分と聞いたが。

委員：伊豆沼が半分だけ。湖沼ではない。

委員長：川が境界になっているのもある。

委員：「ただし」のところの「湖沼等の水域の範囲」はジオパークの水域と読んでもらえるか。

事務局：ジオパークエリアの変更についてなので、大丈夫だと思う。

委員長：見出しをどこかにつけるといいのでは。

それではこれで確定したいと思う。

続いて、今後の予定等を事務局から願います。

事務局：まず、今期の JGC 委員の任期は来年 3 月までとなっている。次年度以降については、メールで確認させていただきたいと思う。その際に継続していただけるのか、していただけないかの希望をお聞きするので考えていただきたいと思う。組織を代表して委員になっていただいている方は、その組織への確認も含めてお願いしたいと思う。後任の候補の方がいらっしゃる場合は、早めにご連絡をいただくと助かる。

委員長：今の件に関して質問はあるか。

委員：最長何年まで等の任期の規定はあるのか。

事務局：ない。この委員会は何回でも再任できる。

委員：承知した。

委員長：それでは今後の予定についてお願いしたい。

事務局：先程もてたが、明日 12 月 15 日（金）は審査基準検討会議を開催する。明日の進行は委員にお願いしてある。次第案はすでにお配りしているので、基本的にはその流れで進めていく予定。

次の予定だが、今年度の予定はフィールド研修が残っている。これについては山陰海岸がレスボスから戻ってきてから様子を伺って 2 月頃に調整していきたいと思っている。

委員長：この後の予定については触れなくても大丈夫か。

事務局：15 時 50 分になったら本日の再認定結果の電話連絡をしていただく。16 時になったら記者発表を 16 時 30 分まで行う。本日は記者が 4 名来られる予定。

委員長：その他、何かあるか。

副委員長：2 点コメントがある。

1 点目は質問だが、来年度の再認定のジオパークを教えてください。

事務局：来年度は 10 地域。伊豆大島、箱根、銚子、ゆざわ、桜島・錦江湾、立山黒部、下北、筑波山地域、浅間山北麓、鳥海山・飛島の 10 地域になる。その次の年は本日イエローが出たのでさらに多くなる。

副委員長：UGGp の事前審査はどうか。

事務局：ユネスコ世界ジオパークの審査事前確認はコロナで 1 年短くなった。去年再認定されたばかりの系魚川、島原半島、隠岐、伊豆半島は来年の夏には JGC の審査事前確認、2025 年にユネスコの再認定審査の予定。

委員：調査員を増やさないといけない。

事務局：今年 JGC の調査員リストの追加登録希望者は 12 名。ただ、去年と一昨年追加した方でまだデビューしていない方もいる。現在、2 名体制なので少しずつ行っていただこうと思う。

委員：プロGRESSレポートは何月までか。

事務局：明日の審査基準検討会議でも話題にさせていただく予定だが、審査のための準備を長時間かけてやりすぎるのがとても問題なので、いかに短時間で集中してやるかというところもある。委員が研修会でおっしゃっているように日々の積み重ねが必要だが、書き始めるのは遅くても大丈夫だと思う。

委員：承知した。

副委員長：2点目は情報提供だが、ジオパークで「ジオパークな旅」のアプリを使っていると思うが、民間の機関との連携というところで、NEXCO 東日本の東北支社の広報の方が「はいたび」という冊子を作っており、可能であればジオパークのアプリの話題や、特に東北の個々のジオパークの紹介などを掲載できますよという話をしている。JGN 事務局に渡したいと思うので担当者をつないでもよろしいか。

事務局：はい。ありがとうございます。

副委員長：よろしく願います。

委員長：その他はあるか。

委員：メールでもご案内したが、NHK のジオジャパンを2回シリーズでやり、ジオジャパン絶景100ということで国内のジオにこだわってやっており、日本ジオパークは上手くいけば全て行くことになると思う。来年の1月、2月くらいで4シリーズくらいやる。

それから活断層学会でやっているオンラインワークショップを、今年に関東大震災100年で国府津松田断層をやる。12月23日(土)に現地見学会をオンラインで中継する。もし、見るだけならいいよという方がいらっしゃれば見ていただければと思う。

委員長：その他はあるか。

もしなければ終わりたいと思う。

それでは本日は皆さんありがとうございました。